



# パリ展覧会に石垣焼

## 金子さん作品「北斗七星」 日本から唯一

【久高泰子通信員】第一回レベラシオン(世に知らず)アート・クラフト展覧会が9月11〜14日、パリのグラン・パレ展不会場であり、石垣市在住の金子晴彦さんが石垣焼の作品を出展した。

### フランス

欧州最高峰を目指した手工業品の展覧会で、金子さんは厳しい審査をパスして日本から唯一出品。作品「北斗七星」3点は、仏国アトアトリエでの永久保存が決まった。

フランス手工業組合などが主催し、世界の手工業品を発展、促進させるために企画された展覧会で、招待国のノルウェーからプリンセスが参加。来場者3万5千人、取材陣6

日本から唯一選ばれ、世界のアート・クラフト関係者から作品が注目された金子晴彦さん(左)。永久保存の「北斗七星」はブース奥の壁上部の3点。グラン・パ

## 厳しい審査 3点が永久保存

00人という規模で、初日は1時間待ちの行列ができる盛況ぶりだった。

展覧会には、セーブル美術館など12団体の審査員が厳選した100社、300人のアーティストが出品。フランス以外の枠は30社のみという狭き門で、日本から金子さんの石垣焼窯元だけが選ばれた。

金子さんの石垣焼作品は、ガラスと陶器を融合させた鮮やかな青色などが特徴。ブースには連日多くの人が訪れて作品群を觀賞した。「北斗七星」の永久保存のほか、「窯変玳瑁天目茶碗」「油滴天目茶碗」2点は中国の陶器名工同盟ギャラリーで来年6月まで展示し、ポルトガル装飾美術館でも数年後に展示する確約を得た。

世界初の新作、ガラスと陶器と加賀蒔絵のコラボ作品「風神・雷神」は12月中旬までパリ日本文化会館で展示される。

金子さんは、多数の専門家から賛辞を得るなど反響の大きさを挙げ、「沖縄や日本を宣伝する事にもなり、大変意味深い出展だった」と評価した。グラン・パレはシャンゼリゼに面する大規模な展覧会場で、1900年のパリ万国博覧会のために建てられた。